福井県小学校長会
會報
2022年度
No.115

発行日：令和４年８月 10 日
発　行：福井県小学校長会
編　集：県小学校長会編集広報委員会
印刷所：株式会社宮本印刷

流行を追いながらも本質を忘れない

福井県小学校長会
会長　北　和　幸

「人の世には三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智がそれである。」文豪・島崎藤村の一文です。自ら学ぼうとする姿勢を持ち、様々な人と関わりを持つことで人として生きる「智」が磨かれる、という意味です。これは、全連小の掲げる「主体的・協働的に学び豊かな未来社会を創る子どもの育成」そのものです。

さて、これまで福井県小学校校長会はその時その時の課題に真剣に向き合い、「三智」を積み重ねてきました。特に、長年にわたって取り組んできた、授業改善、授業研究を中心とした教員の資質能力の向上は本県の子どもたちの学力、体力の向上、生活習慣の定着に大きくつながってきたと言えます。それらを根底から支え、指導を積み重ねて、教育環境を実りあるものにしてきたことは、私たち校長会の誇りと言えるのではないでしょうか。

それらを踏まえた上で、本年度、県小学校長会には四つの大きな課題があると考えています。

一つ目は、「新学習指導要領の着実な実施」です。

「引き出す教育」「楽しむ教育」実現のためにICTの活用も含めて、実践し、共有しながら、従来の日本型学校教育を発展させ、令和の日本型学校教育の構築を求めていく年になると思います。

二つ目は、これまでの実践とICTの最適な組み合わせの模索です。

これまで各学校で実践されてきた対面指導や子ども同士での学び合い、多様な体験活動のノウハウを活かしながら、ICT活用を通して、より協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題発見・解決に挑む資質能力を育成していくことが求められます。

三つ目は、学校における「働き方改革」の推進です。

我々校長がリーダーシップを発揮し、先生方が自分の仕事に誇りを持ち、明るく、笑顔で、心にゆとりを持って子どもたちと向き合えるために、さらに大胆な改革が必要だと考えています。

四つ目は、令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学びの姿の実現です。

教師自身が自ら意欲的に資質能力を高めていくためには、自ら学ぶテーマや課題を設定し、自分で選択して研修計画を立て、主体的に研修に取り組むことが重要です。研修をより充実させるためには校長が人事制度に関わる面談の場を活用し、「対話」によって個々の研修計画を立てていくことが大切になります。

そのためにも私たち校長同士がより一層、情報と実践を共有し合い、課題を明確にして、時代に対応できる学校経営につなげていくことが大切です。今年度も、各校長が強くリーダーシップを発揮し、これらの課題に取り組みながら、本県独自の教育を創り上げていく校長会であり続けたいと考えます。

今後、東陸大会や全連小への参加、各教科・領域の研究会、８月の坂井地区での研究大会等が予定されています。各教育委員会をはじめとする行政機関や関係機関との連携をとりながら、これらの各大会が充実したものとなりますように、県内校長１８４名全員で、一致団結して取り組んでいきたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

第 74 回福井県小学校長学校運営研究大会（南越大会）知事講話概要

夢と希望を持ち、福井を愛する子どもの育成のために

福井県知事　杉　本　達　治

知事になり３年経ち、初めてこうした場を設けていただき、本当に感謝申し上げます。私が最初にこういう仕事に就きたいなと思ったのは、先生だったなという気がしています。人間を育てることにとても興味関心がありました。スペシャリストの皆様方の前で話すのは荷が重いですが、ちょっと違う角度から教育についてお話をさせていただきます。

１　県政運営の基本原則

私が一番力を入れている「徹底現場主義」。これは自分が課題を知る基本になりとても大事だと考えています。校長先生方がいらっしゃるそこが現場です。常々職員に言っているのが「チャレンジ」。私たちは常にチャレンジをしなければいけない。物事を進める時は「チームふくい」。私たちもプレーヤーになって全体で一緒になってやるということです。

２　福井県職員クレド

若手の職員を中心に議論をしながら決めました。「現場」って本来の職場、「挑戦」って毎日するもの、「協働」って仕掛けづくり、「創意工夫」って現状打破、「効率化」って決める覚悟。学校経営でも大事な考え方だと思います。クレドは行動規範で、職員一人一人が自分の頭で考えて行動する、指示待ちする職員をつくらないことがポイントです。

３　教育に関する大綱と教育振興基本計画

大きな柱は、個性と人づくりです。学力・体力日本一の中でさらに個性を磨く、一人一人の子どもたちを育てるところに力を入れていこうと。四つの重点施策「個性を引き出す」、興味関心をもって「学びを楽しむ」、「ふるさと教育」、先生方の「働き方改革」。授業は教えられているだけでは響かない。なぜと考え始めるとすごく身に付く、それを形にしたのが、教育大綱、教育振興基本計画になります。特に今、ふるさと教育に力をいれています。ふるさとを知ることがアイデンティティを明確にしていく上でとても大事だと思っています。そして「働き方改革」、先生が輝いてなければ子どもは輝けない。福井県でも先生のなり手が減って困っている。先生になりたいと思ってもらえるような職場環境にしなければいけない。現場の校長先生方の力は極めて重要です。

４　校長のリーダーシップ

リーダーの心構えとして一番大切なことは、自分の役割。これが「伝える、決める、責任をとる」ことだと言っております。「伝える」は、どんな方向に進むのか明確にしないと組織は動かない。「決定する」「決めるときに決める」、その上で管理職になると「責任をとらないといけない」ここは避けて通ってはいけない。マネジメントでは、先生方一人一人、個人の能力を最大限引き出す。「ハラスメントのない、心理的安全性が担保された職場」が最も重要です。それから「自らを律する」。校長先生方の場合は「覚悟」。最後は「責任をとる」が一番重要になります。「小善は大悪に似たり、大善は非情に似たり」。良い人でいようと思ってしまうと、甘やかす方向に行ってしまう。管理職はこうだと決めた時は最後まで一緒になってやるしかない。物事を大局的にとらえ常に鳥瞰するということも心掛けてほしい。「できること」をするのではなく、「すべきこと」をするのです。すべきことは何かを考えると、どうしたらできるのだろうかと創意工夫ができます。

５　危機管理

子どもたちは毎日いろんな課題を抱えて生きています。まずは気づかないと物事は進められない。一人一人に向き合うのが教員の役割で、個に応じた指導ができる環境を作ってあげることが校長先生のマネジメントです。チームワークで救うため校内での報告や相談が大切、その上で指導監督を徹底して、人任せにしないことも大事なのです。管理職は相手に任せっぱなしにしない、一所懸命にサポートしながら子どもと向き合っていただくことが大事だと思っています。

６　ＤＸのさらなる推進

昨年度急速に学校現場でＤＸが進み、一人一台パソコンを１年間で揃え、授業の進め方が大きく変わりました。合理的、効率的になり、意見の集約に時間がかからなくなり素晴らしい進歩だと感じました。もう一歩先は、教育の仕方を変える。家にも持ち帰って、宿題、いろんな勉強の仕方、全て、この新しいＤＸを使った教育をどんどん進めていくことが一つの解決になっていくと思います。人の一番素晴らしい能力は慣れること。大切に扱うことを教えることも大事だと思います。

７　働き方改革

県庁は男性の育児休業取得を徹底して進めています。若い職員に相談してマニュアルを作り、令和３年度は２７．４％になりました。「管理職が取らせなければならない」を目標としました。心理的安全性が高く、風通しが良い職場が先生にとって働きやすく、子どもたちにとっても先生がのびのび生き生きしているから勉強がしやすい環境になると思っております。大事なことは、一人一人の意識改革です。また制度として、教科担任制を小学校においても進め、ＤＸの推進、外部人材の活用などで、目に見えて残業を減らすことが目標であり、やらなければいけないことだと思っております。

おわりに

座右の銘は「人に処すること藹然」。コミュニケーション能力とは、人の話を聞ける能力、人から話をしてもらえる能力だと職員に言っています。福井は「人が宝」、個性を引き出す、子どもが興味関心を持って学びを楽しむ、そして地域を探究して魅力を発信する。福井県の教育は、ここにいらっしゃる先生方の双肩にかかっています。未来ある子どもたちをのびのびと育てていただきますよう皆様方にお願いをし、また私どもとしては最大限その環境を整えられるように努力をしていくことをお誓い申し上げ、本日の私の話を閉じさせていただきます。

令和4年度

福井県小学校長会 活動方針

福井県小学校長会は、結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに教育諸条件の整備・充実に努め、多大な成果をあげてきている。

これからの社会は、Society 5.0 の実現に向けて急速に変化するとともに、グローバル化・少子高齢化・人口減少社会を迎え、労働構造も大きく変わっていくことになる。また、新型コロナウイルス感染症も収束の見通しが立たない状況であり、新しい生活様式による対応も今後も続くことが予想される。このような激しく変化する社会の中で、小学校教育においても、正解のない課題に立ち向かい、自立した人間として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力の育成が求められている。本県においても「一人一人の個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり～子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進～」を基本理念とする新たな「福井県教育振興基本計画」が策定され、ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、自ら学び考え行動する力を育む教育が求められている。

こうした中にあって、学校は、持続可能な社会の担い手の育成が求められ、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身につけるために、「知識及び技能」「思考力･判断力･表現力等」「学びに向かう力や人間性等」といった三つの力をバランスよく育む教育を実現していかなければならない。そのため校長には、明確なビジョンを掲げ、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めることが求められている。また、ふくいの風土に根付いた教育文化のよいところを継承しつつ、子ども自身の個性に気づかせ、それを伸ばしていくような「引き出す教育」や、好奇心や探究心を持って学びを自ら進んで「楽しむ教育」を地域や家庭などとの幅広い連携・協働のもとで推進していかなければならない。

さらに、英語教育の拡充・強化や「ＧＩＧＡスクール構想」の推進によるグローバル化に対応できる人材の育成、いじめ等問題行動の防止に向けた人権教育と道徳の教科化、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など、対応すべき重要課題が山積している。また、危機管理体制の見直し、安全指導の充実、関係機関との連携を強化した防災教育の推進も喫緊の課題となっている。

このような状況の中で、校長は、現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育成果をあげていかなければならない。私たちは、組織の総力をあげて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要がある。そのために、校長は自らの使命を自覚し、学び続け、権限と責任のもとに、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校･信頼に応える学校づくりに努めなければならない。

以上の方針をふまえ、本年度は次の活動を重点として推進する。

本年度の活動の重点

1 学校経営の充実
2 研究活動の充実
3 持続可能な社会を担う児童に、「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
4 教職員の資質・能力の向上
5 教職員の定数や処遇の改善、働き方改革の推進

これらの活動を推進するために、東海・北陸地区および全国連合小学校長会との連携を一層密にして組織活動の充実に努めるとともに、関係諸機関・団体とも連携し、小学校教育に対する正しい世論の喚起に努める。

主な委員会と活動事項

1　専門委員会

◇人事行財政対策委員会

義務教育費国庫負担制度の堅持、教職員の基礎定数及び加配定数の拡充、ＩＣＴを活用した教育の推進のための専門職員の配置促進、教科担任制の導入による教員の持ち時間数の削減、少人数学級の拡大を目指す学級編制基準見直しの促進、退職時の処遇の充実、働き方改革等のため対策･要請活動を行う。

◇調査研究委員会

今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題について調査研究し、対策に資する。

◇教育研究委員会

研究主題を設定し、研究活動の推進および教育研究大会の企画推進を行う。

◇編集広報委員会

「會報」の発行とホームページの更新により、情報の提供、成果の報告等を行う。

2　特別委員会

必要に応じて設置する。

令和４年度

専門委員会活動計画

人事行財政対策委員会

（要望活動・人対資料）

４月１９日	○第１回専門委員会 （第１回小学校人対委員会） 正・副委員長選出、活動方針・内容について協議等
５月	○県教委と日程・話題等の連絡調整
５月３０日	○第１回小中合同人対役員会 ・当日の運営、参加者について
６月	○各郡市でアンケートを実施、課題・提言案等について集約・分析
６月２１日	○第２回小中合同人対役員会
７月	○第１回小中合同人対委員会（書面審議）
７月２６日	○第３回小中合同人対役員会 ・当日の運営および提言等の最終協議
８月１８日	○「県教育長と語る会」準備委員会 ・話題、提言等について
８月２４日	○「県教育長と語る会」
９月	○「県教育長と語る会」についての報告
１０月	○全連小人事対策研究協議会参加（委員長）
１月	○第２回小中合同人対委員会 ・全連小報告 ・次年度に向けての課題の協議

調査研究委員会

（実態調査・調査報告）（全連小調査）

４月１９日	○第１回専門委員会 正･副委員長選出､年間事業計画の作成 調査テーマ、内容（項目）について
５月	○調査内容についての会員の希望調査 郡市ごとに希望調査、全体の集計 ○第２回専門委員会 調査研究項目・内容の決定 調査方法・集計方法について
６月	○各郡市において調査の実施、集計
７月	○各郡市調査研究委員会 担当項目の考察作成
８月	○第３回専門委員会 調査結果の分析、考察検討 調査研究報告書の原稿作成
１０月	○全連小調査研究協議会参加（委員長） ○第４回専門委員会（正・副委員長） 原稿検討、調査結果分析、考察
１１月	○報告書のデータ配信（校長会ＨＰ） 県教委、地教委等へ報告書配付
１月	○本年度活動のまとめ（アンケート） ○調査研究概要報告 各郡市調査研究委員が概要報告

教育研究委員会

（研究推進）（全国島根大会・東陸静岡大会）

４月１９日	○第１回専門委員会 正・副委員長選出、事業計画案作成 県、東陸・全国教育研究大会について
５月　６日	○全連小・東陸石川大会参加申込
６月１０日	○第２回専門委員会 県教育研究坂井大会について
８月２５日	○県小学校長教育研究坂井大会 福井型８分科会で郡市発表、研究協議
１０月１３日 ～１４日	○全連小島根大会 １３分科会・全体会・シンポジウム
１０月２７日 ～２８日	○東陸静岡大会 １３分科会・全体会
２月	○第３回専門委員会 県教育研究坂井大会の反省等 令和５年度各研究大会の概要

編集広報委員会

（會報発行・HP更新）

４月１９日	○第１回専門委員会 正副委員長選出、活動方針 各郡市原稿割当の確認・決定等 「會報」編集計画
５月　上旬	○「會報」１１５号原稿依頼 県教委・校長講話執筆者・新任校長への依頼 ○ＨＰ更新①
６月３０日	○全連小広報担当者連絡協議会（委員長）
７月１３日	○一次校正締切
８月　上旬	○第１回編集企画会議（正副委員長） 二次校正・編集作業
８月　下旬	○第２回専門委員会 「會報」１１６号企画・原稿依頼計画 ○「會報」１１５号発行
９月　中旬	○「會報」１１６号原稿依頼 ○ＨＰ更新②
１２月　１日	○一次校正締切
下旬	○第２回編集企画会議（正副委員長） 二次校正・編集作業
１月　下旬	○第３回専門委員会 ○「會報」１１６号発行
２月	○ＨＰ更新③

校　長　講　話

みんなで「あさがお」カード

福井市清水南小学校長
吉　田　宏　樹

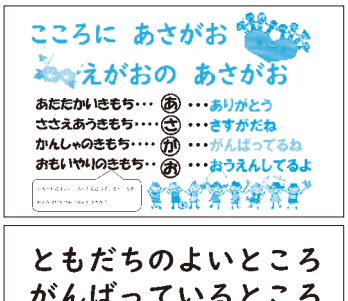
（体育館でプロジェクターで大きく映して）

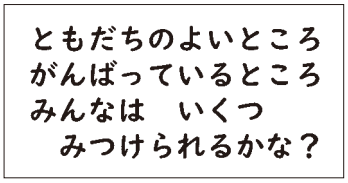
「あさがお」皆さんわかりますか？　玄関前にある１年生が植えたあさがおではありませんよ。

（２枚目のスライドを映し）合い言葉は、「心にあさがお、笑顔のあさがお」です。（うなずく児童）

さて、あ、さ、が、おのそれぞれの意味は何だったでしょう。

「あ」は「ありがとう」あたたかい気持ちですね。
「さ」は「さすがだね」支え合う気持ちですね。
「が」は「がんばってるね」感謝の気持ちですね。
「お」は「応援してるよ」思いやりの気持ちですね。





「心にあさがお　笑顔のあさがお」を合い言葉に皆さんが、いろいろな活動をしたときに友達のよいところや頑張っているところを、カードに書いて見つけることです。皆さんはいくつ見つけられましたか。校長先生は、廊下に掲示されている皆さんのメッセージを見るのがとても楽しみです。それは、皆さんの新たなよいところを発見できるからです。これからも皆さんも友達のよいところをいっぱい見つけてください。

さらに、皆さんは、それぞれいいところを持っています。運動が得意な人、勉強が得意な人、物をつくるのが得意な人、特に得意なことがないという人もいるかもしれません。しかし、みんなちがっていて、みんないいんです。友達に優しい言葉をかけることができる人はとても素晴らしいです。これからもみんなのいいところをたくさん見つけてください。そして、校長先生にもみんなのよいところを教えてください。お願いします。

・・・

前向きなやる気いっぱいの心で

敦賀市立松原小学校長
安　居　裕　之

新しい学年・学級がスタートして１ヶ月が経ちました。１年生も「うみのこ」の一人として、お友達と仲よく過ごしたり、勉強を頑張ったりしている姿を見ることができて、とても嬉しく 思っています。

さて、１ヶ月前に皆さん には、「前向きなやる気いっぱいの気持ちを持ち続けてほしい。」というお話をしました。この１ヶ月、その気持ちを持ち続けることはできましたか。１ヶ月前のみんなのやる気にあふれた表情とどう変わったかちょっと見せてもらいます。（前に出て子どもたちの表情を見る。）素晴らしいですね。まだまだやる気いっぱいの表情がたくさんです。では、その気持ちが本当かどうかちょっとこのボールで試してみましょう。（バスケットボールを見せる）

このボールをよく見てね。このボールが床に着いた時、みんなには、手を一回叩いてもらいます。こんな風にね。（ボールを床についてそれに合わせて手を叩かせる）そして、ボールを高く持ち上げたら、背筋を伸ばして良い姿勢になります。（何度かやってみる）

このボールはみんなのやる気いっぱいの心です。こんな風に押すと高く跳ねて戻ってきますね。先生たちやお家の方は、みんなに「ここまで頑張れ 。ここまでできるようになってほしい。」という気持ちでみんなの心を押してあげています。やる気いっぱいの心だと、ちゃんとここまで跳ね返ってきますね。もしかすると、思っていた以上に高く跳ねる心を持っている人もいるかもしれません。

でも、みんなの中にこんな心になってしまっている人はいないでしょうか。（空気の抜けたバスケットボールを見せる）この心は、やる気が抜けてしまっています。ちょっと応援して押してみますね。（ボールをつくが跳ね返ってこない）

どうして、やる気が抜けてしまったのでしょう。病気になったり、ケガをしたり、もしかしたら友達とけんかしたりして、やる気が抜けてしまったのかもしれませんね。この心だと、いくら先生たちやお家の方が応援しても、高く跳ねることはできません。今、こんな気持ちになっている人はいませんか。みんなでこのしぼんだ心をやる気いっぱいにしましょう。（空気入れでボールに空気を入れる）さあ、やる気いっぱいになりました。（何度かボールをついて手を叩かせ、最後にボールを持ち上げて姿勢を正しくさせる）

これからもみんなのやる気いっぱいの心で、いろいろなことに頑張っている姿を楽しみにしています。

ヘルプマーク

高浜町立和田小学校長
畑　田　憲　克

（実物を見せながら）

この赤い札のようなものを見たことはありますか？これは「ヘルプマーク」といいます。私たちが生活している様々な場所では、外見からは分からないけれども、援助や支援、配慮を必要としている方がいらっしゃいます。このヘルプマークを身に着けることによって、周りの人に援助などが必要なことを知らせるマークなのです。

2012 年、今から 10 年ほど前に東京都でヘルプマークを身に着ける取組が始まりました。この取組は、現在、全国へと広がっています。福井県でもこの取組を行っていて、私たちの高浜町でもこのマークが必要な人は、申請をすればもらうことができます。今持っているこのヘルプマークも、高浜町保健福祉センターからお借りしたものです。例えば足が悪くて車いすに乗っているとか、腕の骨を折ってギプスを着けているとか、外見から分かる病気やけがであれば、周りの人も助けがいるかもしれないな、と考えることができます。でも、もし外見からは分からない病気だった場合は、その人がつらくなって座り込まないといけないなど、何か困ったことが起こっても周りの人になかなか気が付いてもらえませんね。そういうときに、このマークを身に着けていると、その人が助けを必要としていることを周りに伝えることができます。

では、実際にこのマークを身に着けている人を見かけたらみなさんはどうしますか？ここにあるチラシにはこう書いてあります。「このマークを見かけたら、電車・バス内では席を譲る、困っているようであれば声をかけるなど、できる範囲の手助けをお願いします。」

どうですか？みなさんができる範囲の手助けでいいので、何か行動をしてほしいと思います。また、ヘルプマークの裏には、病気のことや、困ったときにしてほしいことなどが書かれている場合があります。話しかけても返事がないときには、ヘルプマークの裏面を確認するのもよいでしょう。どちらにしても、困っている様子が見られたら、声をかけるか大人の人を呼びましょう。小さい人は大人の人を呼ぶことがいいと思います。

見た目では分からなくても、援助や配慮が必要な方はいらっしゃいます。みなさんもこのマークの意味を知り、もし困っている方を見かけたら、何か手助けができるといいですね。

新任校長の言葉

教職員が輝いていてこそ

福井市和田小学校長　勝木　孝一

３月中旬、校長昇進との内示を受けて以来、「教頭」という衣をまといながら、「校長」の在るべき姿を模索する日々には、あたかも羽化前のサナギのように、内面が変わっていく実感がありました。「校長」として羽化した姿は果たして「蝶」なのか「蛾」なのか。

よく１年間の区切りを航海に例えることがあります。正にわが「和田小」丸も、欠け替えのいない46名の教職員（クルー）とともに４月１日出港しました。着任して改めて校務の幅広さが身に染み、皆の協力が無ければ成り立たない現実を実感しました。順風満帆こそ理想ですが、そうは問屋が卸してくれません。

今後予想される大小さまざまな困難に対し、独りで抱え込まず、皆でシェアして乗りこえていく組織にならねばならないと思いました。児童が輝く学校になるには、まず彼らと関わる教職員が輝ける学校になることでしょう。

そのために、私は、皆がやりがいのある職場環境をつくっていきたいと思い、スクールプランの中心には、児童と同じく、教職員自身が、自己の成長と協働して得る喜びを実感できる学校づくり・組織づくりを据えました。今、「和田小」丸は、３月31日の帰港を目指して進んでいます。航路は教職員（クルー）と相談しながら決めていくつもりです。羽化した校長が蝶であろうと無かろうと、私は今を精一杯生きるのみです。

校長の仕事とは

福井市下宇坂小学校長　堤　清忠

先日、学校探検で校長室を訪れた１年生から「校長先生はどんな仕事をしているのですか。」と突然聞かれ、「(しばらく考えて)、校長先生は学校がうまくいくようにいろいろなお仕事をしています。」と答えました。その後、もっとよい答えができなかったかと考えてみました。

本校は児童数の減少により今年度から複式学級に、教職員も２名減になりました。最初は教職員一人当たりの業務が増えることを危惧していましたが、その心配は無用でした。３月末の最初の企画委員会では、先生方が明るく積極的に業務を引き受け、前向きな提案をしてくれました。そして現在も、互いに相談し合ったり教え合ったりしながら、生き生きと業務にあたってくれています。

校長が自分でできることなんて限られているとつくづく思います。つまり「実際に学校を動かしている教職員一人一人にとって働きやすいやりがいのある職場にすること」が一番大切なのだと感じています。これからも、先生方のやる気や思いを生かし、教職員も子どもたちも輝けるような学校づくりができるよう、校長としてできることすべきことに精一杯取り組んでいく所存です。

「校長先生の仕事は、皆さんも先生方もみんなが笑顔で生き生きと通える楽しい学校にすることです。」

次は、このように答えようと思っています。

みんなで、みんなが楽しいと思える学校に

永平寺町志比小学校長　西本　陽子

第１回職員会議で「児童も教職員も『楽しい』と思える学校にしたい。」という思いを話すと、次の職員会議で先生方から「楽しい」をキーワードに提案が出されました。スタートは、ワクワク感でいっぱいでした。しかし、新学期が始まると、次々と課題が押し寄せてきました。感染症への対応に追われたり、地区懇談会を開かなければならない事案が発生したり･･･。生徒指導上の問題、教職員の個人的な問題、保護者対応等、頭を悩ませる日々です。「大変な時こそ、チームで乗り切ろう。」同僚性を発揮しながら協働で取り組むようにしています。家庭や地域の方々も協力的で、学校の応援団はたくさんいます。感謝したいです。そして、何よりの活力は、子どもたちの元気な「おはようございます。」の声。「今日も学校に来てくれてありがとう。がんばろうね。」の気持ちを込めて、毎朝一人一人に挨拶をしています。

さて、先日、校歌にも歌われている城山（通称じょやま）に、５年生と一緒に登ってきました。へとへとになりながらも、山頂に到着した子どもたちは、実に楽しそう。「学校が見える。恐竜博物館も見える。」と歓声が上がりました。やはり、心が解放される楽しい活動が必要です。今後も、教職員や子どもたちとともに、みんなが楽しいと思える学校をつくっていきたいと思います。

塞翁が馬

大野市下庄小学校長　下口真砂代

【塞翁が馬】この言葉を揮毫した色紙を、ある女性からいただきました。コロナ禍で翻弄する日々を思い遣ってか、ご自身の校長時代を振り返ってか、午年生まれで一喜一憂の激しい私をいさめてか、多くの意味を含んで【塞翁が馬】は私の目の前に飾られています。

さて、10年以上も前に、私は修学旅行の事前手続きで大きなミスをしました。校長は保護者への文書を作成して「これでいくぞ！」と一言、教頭は「大丈夫なんとかなる！」と背中を押してくれました。ミスについての言及はありませんでした。この出来事は、有事に頼れる管理職をめざす私の原点となっています。しかし教頭時代は校長の傘に甘えていただけだったことを、校長室に入った今、痛感しています。足りないものをどう補うか？

そこで、人や本から得た情報、ひらめきや予測シミュレーションなどをノートに積み重ねることを始めました。その名も「ポンコツダイアリー」。２冊目に入ったこの「ポンコツダイアリー」は、困難や失敗で消極的になったとき、立ち直る精神的回復の助けになるかもしれません。楽天的なほど、どんと構えた心持ちで、粘り強く突破する力を与えてくれるかもしれません。

【塞翁が馬】幸も不幸も受け入れて、一山ずつ超えていくことで自分の糧としたいと思います。

ありがとうの魔法

坂井市立三国西小学校長　近藤　光彦

今年度初めての全校集会。コロナ禍ではありましたが、久しぶりに全校児童が体育館に集合することができました。子どもたちは少し緊張気味ではありましたが、その中で着任後初めての講話を行いました。内容は三国西小学校に魔法をかけるという話でした。魔法の言葉は「ありがとう」、言った人も言われた人もみんなが幸せな気持ちになることを話しました。そして、そのような行動や言葉を意識し続けることで、一年後にはすばらしい学校になっていることを期待していると伝えました。

次の日、六年生がタブレットのアプリを使用し、私に送ってくれた全校集会の感想の中に「校長先生が魔法をかけてくれたので、きっとこの一年間、ありがとうがたくさん聞こえる明るい三国西小学校になると思いました。」との記述があり、すぐにありがとうのコメントを返しました。

言葉にはとても不思議な力が秘められています。ありがとうの言葉で、心が穏やかになり、自分だけでなく周囲の人も穏やかな気持ちになり、結果的に人間関係が良くなるという好循環が期待できます。本校の学校教育目標として掲げたように、家庭や地域が「ありがとう」というキーワードでつながり、子どもたちの未来につなげられるような、魅力ある学校づくりに努めていきます。

愛（あい）のある学校に

鯖江市豊小学校長　前川　史典

鯖江市の西部、豊かな田園地帯の中に、円筒形の近代的な校舎を備えた本校は位置しています。教頭として２年間を過ごし３年目に校長へ。子どもたち、先生方、校舎、地域への親しみと愛着がどんどん深まりつつあったこのタイミングで、校長を拝命したことに心からの感謝と大きな使命感を感じています。

本校は、ふるさと教育や給食畑、見守り活動などで、地域のおじいちゃんやおばあちゃんたちの協力や支援が充分にいただける学校です。また、校舎は平成２７年に新築したばかり。子どもたちも先生方も、地域や校舎の恩恵に包まれて生活しています。少子高齢化と言われて久しく、コロナ禍や戦争が勃発する世の中で、このような温かく素敵な学校で教育に従事できることは、おそらく奇跡に近いことかもしれません。

入学式で私は１年生に、「豊小学校には、大切に守ってほしい『あい』があります。」と伝えました。「あいさつ」「ありがとう」の「あ」と、一人一つずつ与えられている「いのち」の「い」。です。「学校にいるとそれは気づかないかもしれないけれど、豊小は『愛（あい）』に包まれているよ。その愛（あい）を守り、それに応えられるようがんばろう。」子どもたちと先生方に、そう伝えたかったのです。

不 思 議 な 挨 拶

敦賀市立粟野南小学校長　竹中　由紀

毎日、子どもたちが下校するときには、校門に立って見送っています。低学年の子どもたちが帰るときです。こんな不思議な挨拶に出会いました。

「さようなら！　ただいま！」

うん！さようなら！　えっ？？？ただいま？　みなさん、どういうことだと思いますか？実は、本校の向かい側、歩いて２０歩くらいのところに、学童保育があります。学童の代表の先生が、毎日私と一緒に校門に立って、子どもたちを迎えてくださっているのです。この不思議な挨拶の真相は、私に対しての「さようなら」、学童の先生に対しての「ただいま」だったのです。並んで立っているから、「さようなら！　ただいま！」になったのですね。私は、この不思議な挨拶の謎が解けたとき、子どもたちの素朴で純粋な心にふれたような気がして、とても心が温かくなったのを覚えています。

ＳＮＳ上で「文字」だけが飛び交い、真意が伝わりにくいことの多い時代だからこそ、Face to Face で交わす挨拶は、自分らしさや本当の気持ちを伝える上で、最も有効なコミュニケーションツールの一つです。本校のすべての子どもたちが、自分だけでなく相手の心をも温かくする挨拶で、友達との心をつなぎ、豊かな人間関係を広げていってほしいと願っています。

蒔いた種を育てることで実を結ぶ

小浜市立中名田小学校長　梶川　和則

本校は、市の中心部から約 14Km 離れた所にある全校児童数２４名のへき地複式校（完全複式）です。周りを山に囲まれた自然豊かな地域で、桜をはじめ四季折々の美しい花を眺めながら、児童は地域の方々の温かい支えのもと、毎日元気に学校生活を送っています。本校は、令和元年度福井県へき地複式教育振興研究大会若狭大会において研究と実践を積み重ね、現在３年の月日が経ちました。その時にやり始めたこと（蒔いた種）を、やり続ける（育てる）ことで、確実に成果（実を結ぶ）が現われています。また、当時の取組が軌道修正されながらも現在まで継続している持続可能なものであることに当時の先進的な研究や実践が見て取れます。このような中、現在子どもたちに関わる私たちにできることは何かを常に考えるようにしています。その一つとして、本校の強みである地域連携と豊かな地域資源を活かした「ふるさと学習」があります。ふるさとに愛着と誇りを持ち、ふるさとを大切に思う子・ふるさとに貢献したいと思う子を育んでいきたいと考えています。そのためにも、今しっかりと種を蒔き、家庭・地域・学校が連携したチーム中名田で育てていく必要があります。「地域とともにある学校」を通して、ふるさとを愛する人で地域が賑わうという実が結ぶことを楽しみにしながら・・・。

編集後記

５月の県小学校長学校運営研究大会を参集型で開催するなど、ようやく集まって話ができる日常が見えてきました。コロナ禍、互いの思いを伝え合ったり、情報を共有したりすることの必要性を改めて感じています。この「會報」や県小学校長会ホームページでの発信がその一助になれば幸いです。「會報」１１５号を発行するにあたり、お忙しい中原稿執筆への御協力を賜りました皆様には、深く感謝申し上げます。